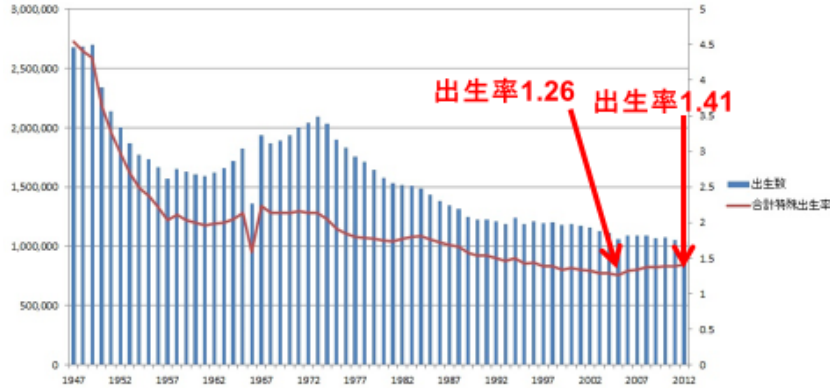
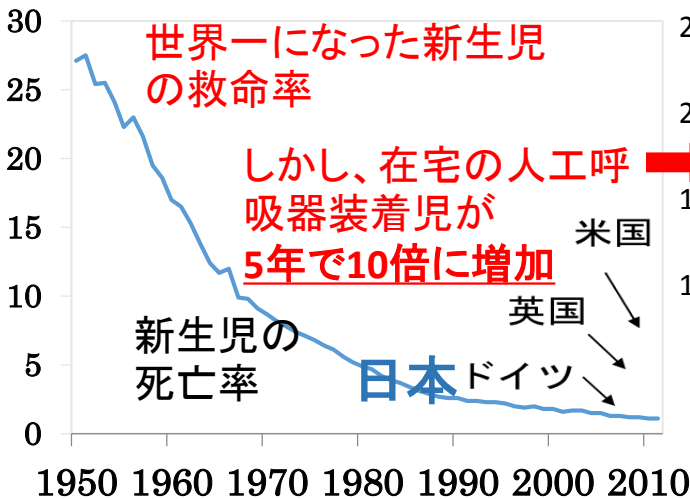


平成26・27年度厚生労働科学研究費補助金研究「小児在宅医療の推進に関する研究」—研究の背景—

我が国の出生数と合計特殊出生率の推移 人口維持のためには合計特殊出生率が2.07必要



増えない出生率⇒少子化対策に周産期医療と小児救急医療の整備は必須



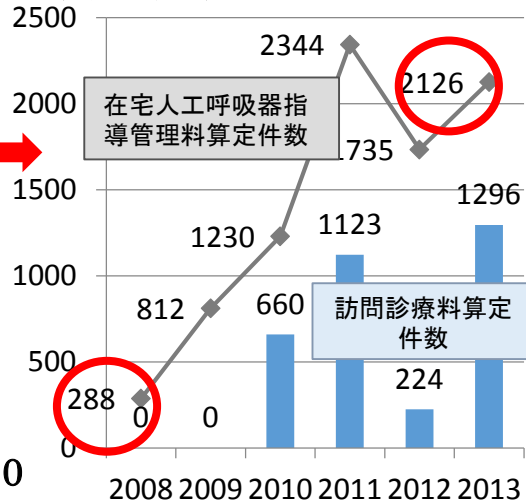
重症心身障害児 大島の分類

- 重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態。医学的診断名では無く、児童福祉の行政上の措置を行うための定義
- 現在も障害福祉制度の基盤の考え方

21	22	23	24	25	70
20	13	14	15	16	50
19	12	7	8	9	35
18	11	6	3	4	20
17	10	5	2	1	0
走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり	IQ

医療ケアが勘案されていない！！

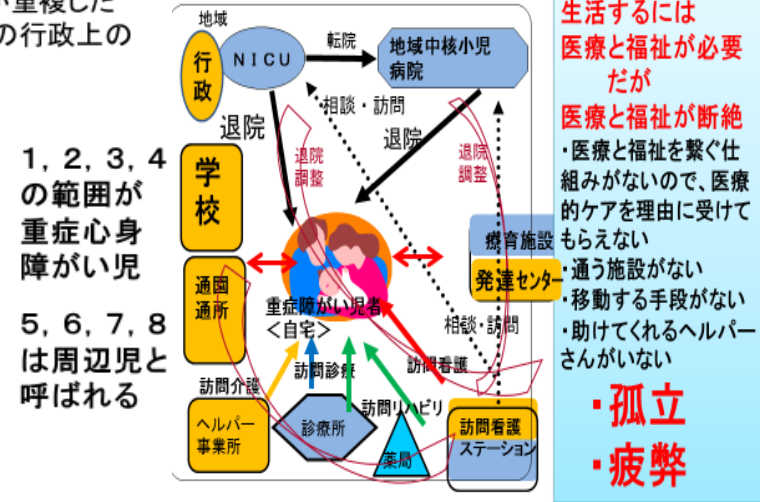
19歳以下における在宅人工呼吸指導管理料算定件数と訪問診療料の推移



医療の進歩が医療的ケア児を生んだが社会制度が追いついていない

歩けて話せる重い医療的ケア児

医療的ケア児にはたくさんの支援が必要



医療技術の進歩

重症心身障害児(歩けない、話せない)

歩けて話せるが、日常的に医療ケアが必要な子どもの出現。数の増加と医療ケアの高度化

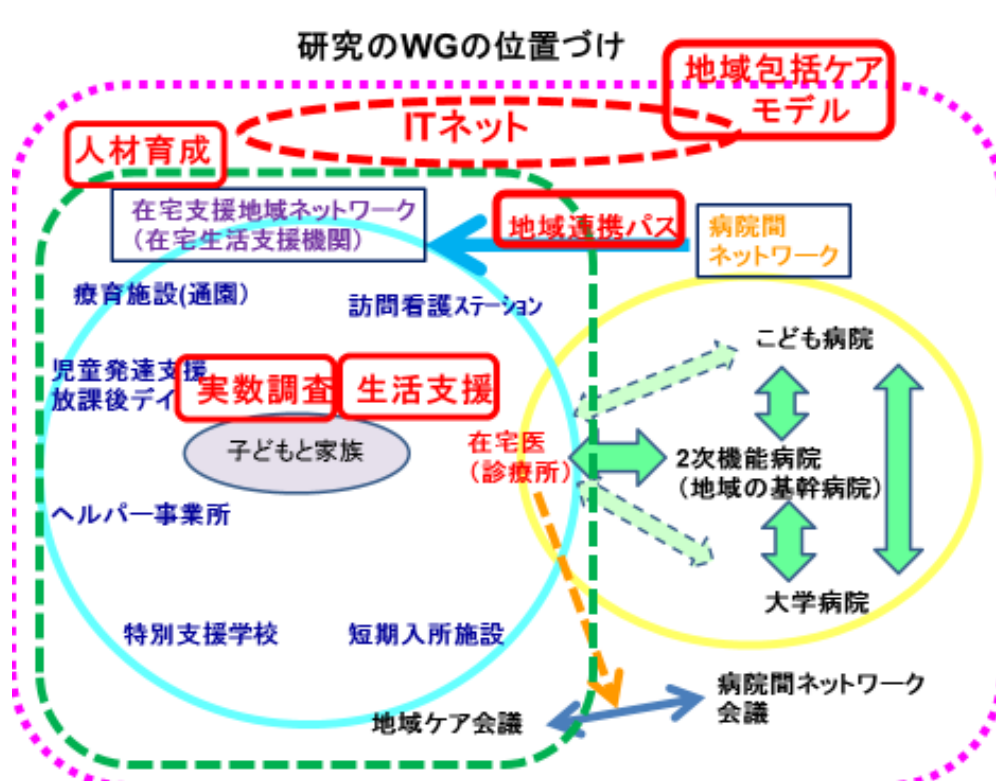
日常的に医療ケアが必要な子ども

超重症児

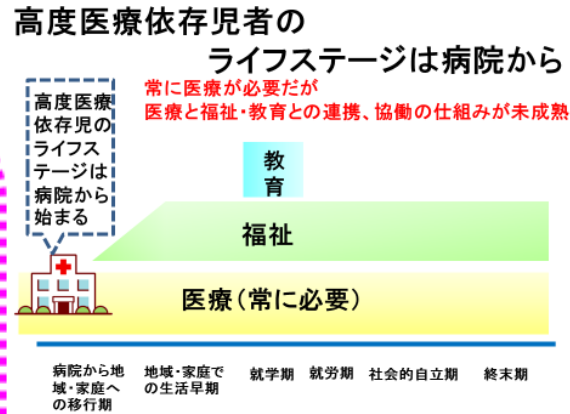
在宅医療の主な対象となる子ども

2016年3月 研究代表者 前田浩利

在宅医療の対象となる児者(医療的ケア児者)は重症心身障害児者という概念を超えているので「高度医療依存児者」と呼び「日常的に医療ケアまたは医療デバイス(医療機器)がなければ生きられず、常時見守りが必要な児者」と定義する



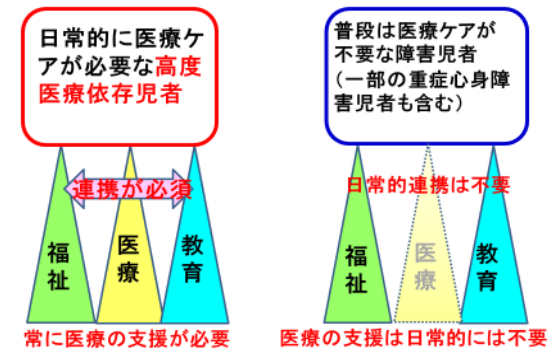
実数調査WG: 高度医療依存児者の概数の把握
 生活支援WG: 支援の必要性を適切に評価し医療と福祉をつなぐ仕組み
 地域包括ケア・連携パスWG: 病院と地域、病院と病院をつなぐ仕組み
 人材育成: 地域で働ける医療者育成、医療と協働できる福祉職育成
 多職種連携ICT: 地域と病院、地域の多職種をつなぐICT



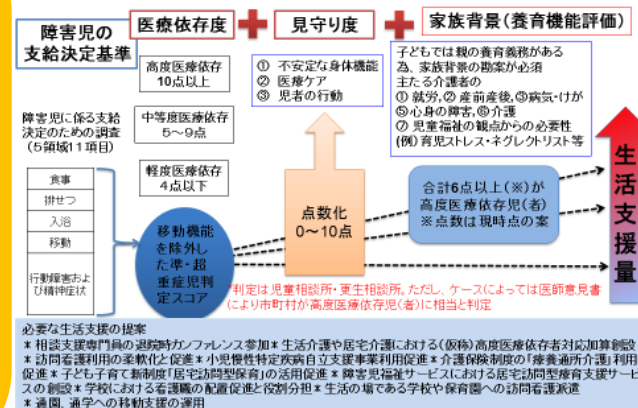
【結果】

- 高度医療依存児: 13000名
- 者: 4000人
- 医療依存度、見守り度、家族背景を加味した支援量決定の仕組み
- 地域と病院が繋がり、人材が交流しながら育つ仕組み
- 実務を効率化する連携ICT

高度医療依存児者は生活支援(福祉)でも教育の場でも常に医療が必要



高度医療依存児(者)の判定と生活支援のイメージ



2016年3月 研究代表者 前田浩利